

北海道教育大学 函館校
国際文化・協力専攻 4年
中澤 美智代

1. 授業

漢城大学で日本語教師をされている土井美穂先生に担当していただいた、今回のプログラムの授業は、韓国の文化・経済・政治について学ぶ時間が一時間、韓国語を学ぶ時間が一時間という構成でした。プログラム内において授業の時間が占める割合は少なく、ほとんどの日程が文化体験など、学校の外で活動するという活動でしたが、少ない授業時間で学ぶものは韓国という国について知るうえで非常に大切に、興味深いものでした。

韓国の文化等を学ぶ時間では、韓国の文化はじめ、現在の韓国が抱える問題等が取り扱われました。たとえば、「言語意識と言語行動の日韓比較」の授業では、日本と韓国の「ありがとうございます」の違いについて学びました。「ありがとう」という言葉は世界共通で同じ使い方をしている人が多いと思いますが、実は日本と韓国の間でも、「ありがとう」の言葉の使い方に違いが生じてくるのです。これは、異文化について学ぶ国際文化・協力専攻という専攻に在籍している私には興味深い講義でした。日本人は、「ありがとう」という言葉を何回も言うという習慣があります。たとえば、日本で何か他人に恩恵を受けた出来事が生じた際、その場でも「ありがとう」という言葉を使いますが、その後その人に会った際にも「この間はどうぞ」や「先日はありがとうございました」などといった類の言葉をかけます。こうして何度も「ありがとう」という言葉を使うことによって日本人は互いの気持ちを確認、円滑な人間関係を形成していきます。では、韓国でこの日本式の「ありがとう」の使い方をするとどうなるのでしょうか。もし、前回お世話になった人に会ったときに「この間はありがとうございました」と言うと、相手はきっとその言った人に悪い印象、もしくは失礼だと感じるでしょう。それは韓国人たちは、一度の「ありがとう」に本人の最大の気持ちをこめて言うために、「ありがとう」という言葉は何度も言うものではなく、その場きりのものだと考えるからです。なので、もし韓国の方に何度も「ありがとう」と言う行為は、初めに言った「ありがとう」には気持ちがこもっていなかったのか、という印象を受けてしまうのです。食事の文化や、敬語の文化などについては、本やガイドブックを読んだりして知っていたのですが、言葉の文化にもこのように大きな違いがあったということには、隣国とはいえ、まだまだ知らないことが多いと実感させられたという意味で、非常に意味のある講義内容でした。

このような韓国について知る授業のほかにも、韓国語の授業がありました。いままで、韓国語は独学でしか勉強したことがなかったので、この授業は私にとって非常に意味のあるものでした。今回のプログラムで私たちのサポートについてくれた、キムソヨンさんとソンジウンさんが発音の練習のサポートをしてくれたおかげで、独学ではカバーできなかった部分(主に発音)を学ぶことができました。

漢城大学校のキャンパス→



2. プログラムにおける体験学習

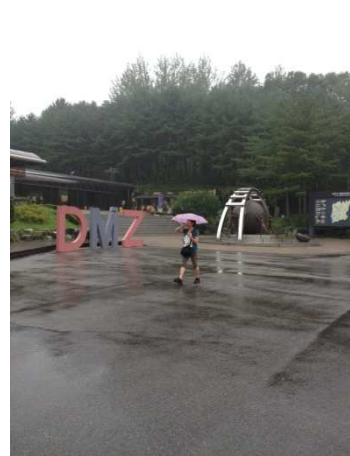
プログラムでは様々な体験や場所の見学をしました。景福宮やDMZ(非武装地帯)ツアー、国立博物館、昌徳宮、戦争記念館、韓服体験などを体験しました。DMZツアーは、まさにいま韓国が対面している問題である、南北関係の現実を身近に感じることができる経験だったように思いますし、宮や国立博物館、戦争記念館を通して、現代の韓国のみでなく、現代の韓国を作り上げるベースとなった歴史についても知ることができました。さらにプログラムには、エバーランドやNANTA公演、B-BOY公演など、韓国の娯楽を体験する内容も含まれており、堅苦しい内容ばかりではなく、十分に楽しむことのできるプログラムだったと思います。また、このプログラムの過程のなかで、実際にソウルの街中を歩くことによって、韓国の人々の普段の生活を、身をもって実感することもでき、そういった意味でも非常に意味のあったプログラムだったと思っています。



↑景福宮



↑国立博物館



↑DMZ(非武装地帯)

3. 漢城大学校での生活体験、ソウルの様子

今回のプログラムで、私たちは実際に漢城大学校の外国人の先生用のゲストハウスで宿泊をし、自分たちで生活をしました。ソウル市内ということもあり、何をかうにも困りませんでした。ゲストハウス内の生活用具が少なく、ルームメイトとともに買い足したのもありました。勉強や食事に使う机もなく、そういった意味で少し不便な思いはしましたが、エアコン・オンドル(床下暖房)が完備され、快適に過ごすことができましたし、冷蔵庫・ガスキッチン・ベッドもあったので短期間生活するうえでは困りませんでした。

ソウルは非常に住みやすい街だと思います。交通面でも、ソウル市内には地下鉄とバスが網羅していて、ほとんどの場所に公共交通機関で行くことができます。特に、観光客が多いソウル市の地下鉄は、外国人でも簡単に理解できるようになっていますし、地下鉄内のアナウンスでも日本語が流れているので、韓国語ができなくても難なくソウル市内各地に行くことができます。また、韓国は本当に日本語ができる人が多いので、買い物等もあまり困らないと思います。

ゲストハウスの部屋の様子→



4. 最後に

私はこのプログラムに参加する前に日韓文化交流基金の日本大学生訪韓研修団に参加していたこともあり、文化体験などにおいては体験したことのあることもプログラムに含まれていましたが、不思議と物足りないと感じず、むしろ新しい発見をたくさんした気がします。行ってみないとわからないこと、自分の目で見てみないとわからないことが沢山ありました。いま、日本と韓国の国交が緊張しているなか、韓国で出会った方々には本当によくしていただきましたし、助けてもらいました。優しい人に沢山出会いました。これは行ってみないとわからないことだと思います。日ごろのニュースだけではわからないことだと思います。

もし次回のこのプログラムに参加しようと考えている人、もしくは参加しようか迷っている人があるのなら、私は全力で背中を押してあげたいです。もし現地に行っても困るようなことがあっても、いつでも周りの人が助けてくれます。なので、安心して行って、多くのことを自分の目で見て感じて吸収してきてほしいです。それくらい価値のあるプログラムだと思います。

最後に、今回のプログラムを担当していただいたキムイルファン先生、土井美穂先生、サポートについていただいたキムソヨンさんとソンジウンさん、そして関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



↑エバーランドにて、プログラム参加メンバーとキムソヨンさん・ソンジウンさんと